

現代日本語における家族に呼びかける際の呼称表現 —世代差と性差を中心に—

セペフリバディ・アザム

要旨

本稿は、家族間の会話において、話し手が聞き手に対してどのような呼称表現を用いるのかについて、話し手と聞き手の年齢や性差等に着眼して分析したものである。鈴木（1978）が、親族間の呼称について、「目下のものは目上の者に対して、名前、人称代名詞で呼ぶことができない」（鈴木 1973 : 46）と指摘しているように、筆者が行った調査でも、話し手は「目上」に相当する父母、祖父母に対して主に親族呼称を使用しており、人称代名詞で呼ぶ事例は見られなかった。しかし、兄姉に対しては、親族呼称以外に、名前、あだ名、人称代名詞という3種類の呼称が確認され、父母、祖父母に対しても、親族呼称以外に、名前、あだ名という2種類の呼称が確認された。そして、話し手に対して聞き手が年上、すなわち「目上」であればあるほど、話し手による親族呼称の使用は減少し、より多様な呼称が用いられる傾向が見られた。このように呼称の使用実態は、少なくとも部分的には鈴木（1978）の説にあてはまらない例も見られ始めていることがわかった。

キーワード：親族呼称、人称代名詞、社会言語学、年代差、性差

1. はじめに

自然言語のメカニズムを解明していくためには、狭い意味での文法的な知識だけでなく、話し手の心的態度や、聞き手との社会的関係を考慮した社会言語学的視点が必要になる。本稿で対象とする親族間の呼称のような、対人関係を問題にする研究においては特にそうである。

しかし、親族間の呼称が家庭内でどのように使われているのか、自分自身の家庭を除いてその実態を正確に知ることは難しい。また、その実態を調査する基礎的研究はこれまであまり見られず、近年は個人情報保護法の壁もあり、そうした調査がなかなか進まないのが現状である。本稿ではこの点に着眼し、親族間の呼称表現を調査・考察することにした。

柴田（1982）は、親族を指す表現である親族名を、「お父さん」「お母さん」のように相手に直接呼びかける時に用いる「呼びかけ語（address term）」と、「父」「母」のように間接的に話題に出す際に用いる「言及語（reference term）」に分け、「言及語について男女が強く効いており、呼びかけ語についてはEgoよりも年上年下か、及びEgoから心理的に遠いか否かが効いている。世代その他は目立った要因ではない」と結論付けている。鈴木（1973）では、親族間の会話における「代名詞的用法」の使い分けを調査した結果、「目上・目下」による呼び方の原則を見出し、この親族間の原則は社会的場面にも当てはまる可能性がある」と指摘している。これは現在でも有力な仮説になっている。しかし、鈴木（1973）の指摘は40年近くも前のものであり、現在ではその原則が相当変わっている可能性がある。鈴木（1973）の仮説が現在でも変化がないのか。変化があるとしたら、それは柴（1982）が指摘しているように、話し手個人の成長や家族関係の変化などと関係がないのか。さらには、呼ぶ側の性差と呼ばれる側の性差、呼ぶ側の年代や成長段階が呼称表現に与えることはないのか、といった点に注目して論じることにはしたい。

なお、本稿は話し手が親族に呼びかける呼称表現についての調査であるが、それと対になるものとして、話し手が親族に呼びかけられる際の呼称表現についても調査の必要がある。その結果については、セペフリバディ (2011) を参照されたい。

2. 調査方法

2.1 アンケート調査

筆者は、2010年7月から12月にかけて、日本語を母語とする東京在住の日本人250名を対象に調査票を配布してアンケート調査を実施した。250名の内訳は、東京都内の公立小学校5年生、公立中学校2年生、公立高等学校2年生の男女各25名、同じく都内にある2大学の男女学生各25名、また都内在住の社会人2年目の男女各25名である。なお、大学生と社会人は、小中学生・高校生が東京在住であることに合わせて、東京都及びその近県である神奈川県・埼玉県・千葉県の出身者を対象とした。

調査対象者として、中学・高校・大学2年生の男女、社会人2年目の男女を選定したのは、2年目が一般的に学校や職場の環境になじみ、調査対象者の用いる呼称や使い分けに対する生活環境・状況等の影響が安定化する時期であると考えられるためである。また、小学生については、当初、低学年の2年生と高学年の5年生を調査対象とすることを想定していたが、2年生の場合は質問紙に回答してもらうことが困難であったため、5年生に対してのみ調査を実施した。

表1：調査対象の性差および人数

学年 性差	小学5 年	中学2 年	高校2年	大学2年	社会人2 年	合計
男	25名	25名	25名	25名	25名	125名
女	25名	25名	25名	25名	25名	125名
合計	50名	50名	50名	50名	50名	250名

2.2 質問項目

同調査では、家族間の関係の差異による日本語の呼称の使い分けを検討するため、話し手を基準に、同世代と異世代の「目上」と「目下」の関係にある家族を設定し、それぞれの親族に対してどのような呼称を用いているか、調査対象者に尋ねた。

回答は自由記入式で行った。それは、できるだけ多様な呼称のバリエーションを収集して類型化し、その類型から日本語の呼称の使い分けの傾向とその特徴を探ることを意図したためである。なお、回答者には、それぞれの親族と対面して会話するという状況を想定し回答してもらった。

3. 家族に対して用いられる人稱表現

3.1 家族に対する人稱表現の分類

本稿では、家族に対する人稱表現を、以下の表2のように5種8類に分類した。

①親族名称：

基本的・伝統的に使用されてきた親族名称（「お父さん」「お姉ちゃん」など）

愛称的—基本的親族名称に手を加えて親しみを込めた親族名称（「パパ」「にい」など）

俗語的—公的な場面では使いにくい、ややぞんざいな印象を与える親族名称（「おやじ」「姉貴」など）

②固有名称：

名前—相手の名前の呼び捨て、もしくは「さん」「ちゃん」「くん」などをつけたもの

あだ名—相手のあだ名の呼び捨て、もしくは「さん」「ちゃん」「くん」などをつけたもの

③役割名称：「先生」「院長」など相手を役職名で呼ぶもの

④人称代名詞：「あなた」「お前」などの二人称代名詞

⑤指示詞：「そちら」「そっち」などのソ系の指示詞

表 2：呼称の分類

種 類	親族名称			固有名称		役割名称	人称代名詞	指示詞
	基本的	愛称的	俗語的	名前	あだ名			
例	お父さん	パパ	おやじ	咲子さん	さっちゃん	院長先生	あなた	そちら
例	母さん	ジジ	おふくろ	田中さん	チビちゃん	先生	あんた	そっち
例	お姉ちゃん	おねえ	姉貴	花子ちゃん	花さん	社長	お前	—

ここで言うあだ名とは、本名以外に他人からつけられる愛称、いわゆるニックネームを指す。

日本語のあだ名には、個人名の一部を略した呼び名、及び、変化させた呼び名、または個人名とは関係ない、その人の特徴等に由来する呼び名が多く見られる。前者の例として、「咲子」に対する「さき」や「さっちゃん」が挙げられ、基本的に「名前の最初の2拍+ちゃん」の形となることが多い。後者は、実名とは関係なく、身体的な特徴などから「ノッポ」「チビちゃん」と呼ばれる場合である。個人的な談話では後者の例も見聞きしたが、今回のアンケート調査では、「名前の最初の2拍+ちゃん/くん」などの前者のケースのみが見られた。

3.2 父母に対して直接呼びかける呼称

まず、父母の呼び方から順に見ていくことにする。小学生が両親に呼びかける際に使用する呼称の集計結果は、表 3、4 の通りである。男子の間では、「お父さん」「お母さん」という基本的名称が最も多く 25 名中 7 名、次いで「パパ」「ママ」という愛称的名称が 25 名中 6 名であった。これに対して女子のうち半数以上は、「パパ」「ママ」という愛称的名称を使用している（25 名中 14 名）。「お父さん」「お母さん」を使用している 7 名の小学生男子に対して聞き取り調査を行ったところ、「パパ」「ママ」という愛称的名称は幼児語であると認識しており、小学校 5 年生になると「パパ」「ママ」という言葉を使うことに抵抗を感じる男子が増えることがわかった。男子は使用している言葉が幼稚かどうか、女子よりも早い年齢で意識するようになるという様子が窺われる。

中学生の男子の間で最も使用されているのは「お父さん」「お母さん」（各 11 名）、次いで「父さん」「母さん」（各 5 名）という基本的名称である。

女子は「お父ちゃん」（8 名）「お母ちゃん」（7 名）、次に「パパ」「ママ」を各 5 名）を用いている。この結果から、中学生では小学生に比べて男女ともに「パパ」「ママ」という愛称的名称が減る一方、「お父さん」「お母さん」という基本的名称が増えていると指摘できる。また、女子は

「お父ちゃん」「お母ちゃん」も増加するものの、「パパ」「ママ」を使用する者も根強く残っていることがわかる。女子は、中学生になっても、両親に対して、幼児性の残った愛称的名称を使う傾向があると言えよう。

表3：父への呼称

人稱表現	レベル 項目	小		中		高		大		社		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
親族名称	基本的	お父さん	7	2	11	5	3	13	4	9	4	8
		父さん	2	—	5	—	11	—	5	—	1	—
		お父ちゃん	—	1	—	8	—	1	—	—	—	—
		父ちゃん	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		父	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	愛称的	パパ	6	14	1	6	—	2	—	2	—	—
		パパチ	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—
		ダディ	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
		とと	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	俗語的	おやじ	—	—	1	—	2	—	6	1	8	3
		おやじくん	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2
		おやじさん	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2
		おとん	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
	役割名称	院長先生	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
		社長	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
		先生	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
固有名称	名前	苗字+先生	—	—	—	—	1	1	—	1	1	
		苗字+さん	—	—	2	1	2	2	—	1	1	2
		名前	2	—	1	1	1	—	1	2	2	2
		名前+さん	2	1	2	3	3	3	2	2	3	3
	あだ名	あだ名+さん	—	—	—	—	1	—	1	1	—	
	(いません)	2	2	2	1	3	2	4	2	3	2	
	合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	

表4：母への呼称

人稱表現	レベル 項目	小		中		高		大		社			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
親族名称	基本的	お母さん	7	2	11	5	5	14	4	12	4	12	
		母さん	3	—	5	—	11	—	6	—	1	—	
		お母ちゃん	—	3	—	7	—	1	—	1	—	1	
		母ちゃん	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		母	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		マミ	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	
	愛称的	ママ	6	14	2	6	—	2	1	2	—	—	
		おかか	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
		おふくろ	—	—	—	—	—	—	5	—	8	—	
	俗語的	おかん	—	—	—	—	2	—	1	—	—	—	
		苗字+さん	—	—	—	1	2	—	—	—	—	—	
	固有名称	名前	名前	—	—	—	1	—	—	2	2	2	3
			+さん	2	2	3	1	3	2	2	2	3	2
			+ちゃん	2	—	1	2	1	2	2	1	3	2
			あだ名	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
			あだ名	+さん	—	—	1	—	—	—	—	1	—
+ちゃん	1			—	1	1	1	2	—	2	1	3	
(いません)	—			1	1	1	—	2	2	2	2	1	
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25		

高校生の男子では「父さん」「母さん」(各11名)、女子では「お父さん」(13名)「お母さん」(14名)という基本的名称が圧倒的に多い。「お父さん」「お母さん」という基本的名称は、男子は小学生で使い始め、中学生でピークに達するのに対し、女子は中学生で増加し、高校生でピークに達する。なお、「父さん」「母さん」を使用する高校生男子に対する聞き取り調査において、「『お』を付けるのは子どもっぽいので、『お父さん』『お母さん』から『父さん』『母さん』に変えた」という回答が多く確認された。男子が「父さん」「母さん」という基本的名称を好むのは、幼児性を可能な限り排除する傾向の表われであると考えられる。

大学生の男子が父親に対して最も多く使用する呼称は俗語的名称の「おやじ」(6名)、次いで基本的名称の「父さん」(5名)であり、母親には基本的名称の「母さん」(6名)、次いで俗語的名称の「おふくろ」(5名)である。大学生女子の間では「お父さん」(9名)、「お母さん」(12名)という基本的名称が最も多く使用されている。尾崎(2009)は、加齢による言語使用の

変化として父母を呼ぶ言葉をとりあげ、「オトーサン・オカーサンあるいはオトーチャン・オカーチャンという呼び方が「気恥ずかしい」「照れくさく感じるようになった」「身内敬語を砕きたくなった」という理由で、オトン・オカンに切り替えた」という調査結果とともに「オトン」「オカン」「オヤジ」「オフクロ」と言った呼び方は加齢に伴って使用されると指摘している。

この傾向は社会人で顕著であり、社会人男性の間で最も使用されているのは、「おやじ」「おふくろ」（各8名）という俗語的名称である。女子の間では、父親に対しては「お父さん」（8名）という基本的名称が一番多いが、次いで、俗語的名称「おやじ」（3名）や、それに接尾辞を付けた「おやじくん」（2名）「おやじさん」（2名）が比較的多いことが注目される。母親には、「お母さん」（12名）という基本的名称が最も使用されている。なお、親しみをこめた、しかしやや荒っぽい「おやじ」という呼称で父親を呼んでいる女性が、母親には「お母さん」という表現を使用していたことは注意を引いた。「おやじ」は、一般に、男子が成長するにつれて、父に対して親しみをこめて用いる語と認識されているが、本調査によると、男子のみではなく、女子にも使用者がおり、かつ、女子が使う場合「おふくろ」と対で使われるわけではなく、その使用が非対称的である点が明らかになった。

以上の考察に聞き取り調査の内容も加味してまとめると、以下のようなだろう。

男子は、その幼児期においては、「パパ」「ママ」という愛称的名称を用いているが、小学校高学年になると徐々に「お父さん」「お母さん」という基本的名称に移行し始める。中学生から高校生になると「父さん」「母さん」という基本的名称が主流になり、大学生、社会人になると「おやじ」「おふくろ」という俗語的名称が増え、その他の呼称表現も多様化する。男子は女子に比べ、成長に伴う呼称表現の移行が早い。理由として前掲のインフォーマントが「幼児語をいつまでも使うのは恥ずかしい」と述べているように、周囲からからかわれたり馬鹿にされたりしたくないという意識が背景にある。一方、女子であるが、幼児期に用いていた「パパ」「ママ」という愛称的名称を、小学校高学年でも引き続き使用する。中学生では、「お父ちゃん」「お母ちゃん」ないし「お父さん」「お母さん」という基本的名称に移行し、高校生になって、「お父さん」「お母さん」が定着する。しかし、男子と違い、接頭辞「お」が落ちる割合が低く、大学生や社会人になっても、俗語的名称は、特に母親に対してはあまり選択されない。

以上のことから、両親に対する呼称表現は、年代・性別の影響が強いことがわかった。ただし、本調査は「見かけの時間（apparent time）」によるものであり、厳密には縦断的な調査を待たなければならぬだろう。

3.3 父母に対する会話の中での呼称

会話の中の呼称は、呼びかける際の呼称とほぼ同様の傾向を示していたため、表を割愛した。調査結果は、鈴木（1973）の説である「目下の者は目上の者に対して、人称代名詞を使うことができない」ことを裏付けるものであった。

3.4 祖父母に対する呼称

表5：祖父に対する呼称

表6：祖母に対する呼称

人稱表現	レベル		小		中		高		大		社		
	項目	性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
親族名称	基本的	じいぢやま	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	
		おじいさん	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	
		じいさん	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	
		おじいちゃん	1	2	6	5	2	2	3	8	5	10	
		地名+	—	—	—	2	1	1	1	—	—	—	
	愛称的	じいちゃん	2	2	6	2	10	11	5	5	6	2	
		地名+	—	—	1	1	—	—	—	—	—	2	
		じっちゃん	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	
		じいかん	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
		オジジ	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
役割名称	社長	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—		
	先生	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1		
	固有名称	名前	苗字+さん	—	—	2	2	—	1	1	—	2	1
			名前	1	—	1	1	2	1	1	1	1	1
		あだ名	+さん	2	2	1	2	2	1	2	2	—	2
+ちゃん			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計	(いません)	3	2	3	4	4	3	5	4	5	5		
	合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25		

集計結果によると、父母への呼称と同様に、祖父母に対する呼称もバリエーションが多い。表 5, 6に見られるように、小学生が祖父母を呼ぶ際に使用する呼称のうち、男子の間で最も使われているのは「ジジ」(8名)「ババ」(7名), 次いで「ジージ」(3名)「バーバ」(4名)という愛称的名称である。また、女子の間で最も使われているのは「ジージ」(8名)「バーバ」(7名)という愛称的名称である。なお、尾崎(2009)は無作為に選ばれた全国の803人への調査で「祖父」「祖母」という意味で「じいじ」「ばあば」と言うことがあると回答した人はいずれも24%で、国民の4人に1人はこの表現を使用しているとしている。

中学生が祖父母を呼ぶ際に、男子は、基本的名称「おじいちゃん」「おばあちゃん」が6名、接頭辞「お」のない「じいちゃん」「ばあちゃん」が6名で、いずれも同数であった。一方、女子は、基本的名称「おじいちゃん」「おばあちゃん」が5名、愛称的名称「ジージ」「バーバ」が5名で、こちらも同数であった。

「ジージ」「バーバ」あるいは「ジジ」「ババ」という愛称的名称は、幼児が最初に覚える呼称に属しており、成長に従い「おじいちゃん」「おばあちゃん」や「じいちゃん」「ばあちゃん」の

ような基本的名称が用いられるようになる。男子の方が女子よりも、幼児語で呼ぶ人数が少ないのは、父母の場合と同様の傾向である。

高校生が祖父母を呼ぶ際に使用する呼称は、男女共に「じいちゃん」「ばあちゃん」という基本的名称が最も多い。男子の場合は中学生で既に「お」をつけない「じいちゃん」「ばあちゃん」の使用が一般的であるが、女子は中学生では「お」をつける者が多く、高校生は「お」を取る傾向が強まる。10名の高校生男子に対する聞き取りによると、7名は「『お』を付けるのは子どもっぽいので『おじいちゃん』『おばあちゃん』から『じいちゃん』『ばあちゃん』にした」、1名は「小学校5年生になってから兄の言葉を真似して『じいちゃん』『ばあちゃん』にした」、1名は「いとこの言葉を真似して呼び方を変えた」、もう1名は「中学校になってから呼び方を変えようと思った」と答えた。

大学生が祖父母に最も使用している呼称は、男子が「じいちゃん」「ばあちゃん」なのに対し、女子の間では「おじいちゃん」「おばあちゃん」という基本的名称の使用頻度が最も高い。

この結果を高校生と比較すると、大学生男子は高校生と同様に「じいちゃん」「ばあちゃん」、あるいはそれまで使わなかった「じいさん」「ばあさん」を使用し、いずれも「お」をつけることは避けている。

一方、大学生女子は、高校生で多かった「じいちゃん」「ばあちゃん」という基本的名称に「お」をつけて「おじいちゃん」「おばあちゃん」と呼ぶ者が多い。これは中学生の傾向に戻った格好だが、ぞんざいさを避け、丁寧に遇することがその目的であろう。

社会人男子が最も使用しているのは「じいちゃん」「ばあちゃん」であるが、「おじいちゃん」「おばあちゃん」の頻度も上がっている。

社会人女子は「おじいちゃん」「おばあちゃん」の使用頻度が大学生の時よりもさらに高くなっている。

総じていえば、父母の場合に似た傾向であるが、父母よりも距離があり、「おやじ」「おふくろ」に相当する俗語的名称もないせいか、成長に伴う呼称表現の変化は比較的緩やかな印象であり、成長してからの非親族呼称の使用人数も父母の時ほどは高くなかった。

なお、2010年10月から2011年2月に行った同じ調査対象者に対する追加調査で、家族形態が祖父母に対する呼称に影響していることが判明した。

250名の対象者に聞き取り調査を行ったところ、祖父母と同居している人は57名（女性：29名、男性：28名）であり、そのうち38名の祖父母に対する呼びかけは、「苗字、名前、あだ名＋さん／ちゃん」という非親族呼称あるいは固有名称であった。

理由を聞いたところ、18名は「親密な関係」、7名は「両親の呼びかけを真似して祖父母を呼んでいる」、5名は「名前で呼ぶのが格好いいと思って呼ぶ」、4名は「中学校になり、学校の友達の影響で」、3名は「友人と同じぐらい親しい人だから」、3名は「非常に親切で、すぐ相談のってくれるし、秘密も言えるし、かわいがってくれるから」と答えた。祖父母との親密な関係が反映されている理由が多い。

一方、祖父母と別居している対象者は、男女ともに祖父母を「名前／あだ名」で呼ぶ例も見られたが、祖父母と同居している対象者に比べて少ない。以上から、呼称の用法が核家族化の影響を受けているものと推察される。

3.5 祖父母に対する会話の中での呼称

会話中でも、孫は祖父母に対して呼びかける際と同じ呼称をそのまま使用している。そのため、ここでは表を割愛した。この調査結果は、鈴木（1973）の説である「目下の者は目上の者に対して、人称代名詞を使うことができない」ことを概ね裏付けるものであった。

3.6 兄姉に対する呼称

兄・姉に対する呼称に関する調査では、少子化傾向のためか、「兄・姉がいない」という回答が多かった。

表7：兄に対する呼称

人稱表現		レベル		小		中		高		大		社	
		項目	性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
親族名称	基本的	お兄ちゃん	2	2	—	—	—	1	—	1	—	—	—
		兄ちゃん	2	2	2	2	—	1	—	1	—	—	—
		兄さん	—	—	—	1	1	1	—	—	—	—	—
	愛称的	にっちゃん	1	2	1	—	1	1	—	—	—	—	—
		にい	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
俗語的	兄貴	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
固有名称	名前	名前	2	3	2	3	2	2	3	3	2	3	3
		+さん	—	—	—	—	—	—	1	1	2	1	—
		+くん	1	2	1	—	1	1	1	1	1	1	1
		+ちゃん	1	—	—	—	—	—	2	2	2	2	2
	あだ名	あだ名	4	3	5	3	6	7	3	4	3	4	4
		+ちゃん	3	2	3	4	2	1	2	1	2	3	—
		+くん	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—
その他	ねえ(呼びかけ)	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	
	(いません)	9	9	10	11	12	10	12	9	13	11	—	
	合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	

表8：姉に対する呼称

人稱表現		レベル		小		中		高		大		社	
		項目	性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
親族名称	基本的	お姉ちゃん	2	2	2	2	—	2	—	1	—	1	—
		姉ちゃん	1	2	1	—	—	—	1	1	—	1	—
	愛称的	ねえ	1	—	—	—	—	—	2	1	—	—	—
		姉貴	2	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
	固有名称	名前	名前	2	2	2	2	2	3	3	—	4	2
+さん			—	—	—	—	—	—	1	1	2	2	—
+ちゃん			2	1	2	1	2	—	2	1	1	2	—
あだ名		あだ名	2	3	2	4	6	7	5	4	3	3	—
		+ちゃん	2	3	3	5	2	4	1	3	2	2	—
		(いません)	11	12	13	11	12	9	10	13	13	12	—
		合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

兄を呼ぶ際には、表7からわかる通り、小学生から社会人まで男女ともに、非親族呼称(固有名称)を使用する人が多く、しかも、大学生男子は、兄に対して親族呼称で呼ぶ者が一人もいない。一方、女子は社会人になると、兄に対して親族呼称を使用する者が一人もいなくなる。姉を呼ぶ際にも、表8からわかる通り、小学生から社会人まで男女ともに、非親族呼称を使用する人が多い。男子は社会人になると、親族呼称で呼ぶ人がいなくなり、女子の場合も社会人になると親族呼称で呼ぶ人が非常に少なくなる。

父母に対する親族呼称としては「お父さん」「お母さん」が多く見られたが、兄姉に関しては「お兄さん」「お姉さん」は、小学生から社会人まで男女共に1名もいなかった。これは、互いの年齢が近いこと、より親しみをこめた「兄ちゃん」「お姉ちゃん」を用いたり、「名前」「あだ名」の呼び捨てや「～くん」「～ちゃん」づけで呼んだりすることが多いからであろう。

鈴木（1988）によれば、日本語では兄・姉に対しては親族呼称で呼びかけるのが一般的であり、目上の人に対しては名前で呼びかけることができないという。しかし、今回の調査では、「名前」「あだ名」「名前／あだ名＋くん／ちゃん」付けの固有名称を用いることが多いことがわかった。この点については、岡本（2000）は、少子化に伴い、大きな年齢差のきょうだいが少なくなって、きょうだいにおいて上下関係が意識されなくなったことを指摘し、また荻野（1998）は、子から親、孫から祖父母といった直系の上位者よりは、弟から兄というような傍系の上位者に関して制約が弱いことがその原因であると述べている。このような推測は正しいと考えられるが、それに加えて、非親族呼称の呼び方のバリエーションが増えているという点が興味深い（「あだ名＋くん」「名前＋さん」「名前＋くん」等）。

そこで、筆者は、250 人の対象者の中で、兄姉に対して固有名詞を使う者 128 名に、固有名詞を使う理由について聞き取り調査を行った。そのうち、65 名が主に「アニメと携帯電話、インターネットの影響で」と回答し、40 名が「成人してからはなんとなく親族呼称で呼びかけるのが恥ずかしくなった」と述べている。また、13 名が「年齢が近いため、より親しみをこめた親族呼称を使わず、『～くん』『～ちゃん』をつけたり、『あだ名』で呼ぶ」と回答し、10 名が「自分の周りの友人はあまり親族呼称で呼びかけない」と答えている。

上述の聞き取り調査から、携帯電話やインターネットを始めとする新しい技術の出現が呼称表現に影響していることがうかがえる。つまり、家族関係の変化に加え、技術の発達にともなうコミュニケーション手段の変化も呼称表現に与える影響が大きいと考えられるのである。

3.7 兄姉に対する会話の中での呼称

表 9：兄への会話の中での呼称

人稱表現	項目	レベル										
		小		中		高		大		社		
性差		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
親族名称	伝統的	お兄ちゃん	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—
		兄ちゃん	1	2	1	2	—	1	—	1	—	—
		兄さん	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—
	愛称的	にっちゃん	—	2	—	—	1	—	—	—	—	—
俗語的	兄貴	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	
固有名称	名前	名前	2	1	1	2	1	1	2	2	2	3
		+くん	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—
		+ちゃん	1	—	—	—	—	—	1	1	1	1
		+さん	—	—	—	—	—	—	1	1	1	—
	あだ名	あだ名	2	2	4	1	1	3	2	3	1	2
		+くん	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
		+ちゃん	1	1	1	2	—	1	—	2	—	2
人稱代名詞	あんた	—	—	—	2	—	1	—	2	—	—	
	あなた	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	
	お前	6	6	7	4	9	7	7	4	7	4	
	(いません)	9	9	10	11	12	10	12	9	13	11	
	合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	

表 10：姉への会話の中での呼称

人稱表現	項目	レベル										
		小		中		高		大		社		
性差		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
親族名称	伝統的	お姉ちゃん	1	2	1	2	—	2	—	—	—	—
		姉ちゃん	1	1	—	1	—	—	1	—	—	—
	愛称的	ねえ	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	俗語的	姉貴	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—
固有名称	名前	名前	—	—	1	1	1	1	1	2	2	2
		+さん	—	—	—	—	—	—	1	—	1	2
		+ちゃん	2	1	1	—	1	—	1	1	—	—
	あだ名	あだ名	2	3	2	2	1	2	2	1	2	2
		+ちゃん	2	1	—	—	—	1	1	1	1	1
人稱代名詞	あんた	—	3	2	4	4	8	4	4	5	3	
	あなた	—	2	1	3	—	2	2	3	1	3	
	お前	4	—	4	1	5	—	2	—	—	—	
	(いません)	11	12	13	11	12	9	10	13	13	12	
	合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	

表 9, 10 からわかる通り、兄姉への呼称は、父母・祖父母と異なり、人稱代名詞を使用する例が全体として多く見られる。弟は兄に対して「お前」という表現をより多く使い、また、姉に対して

小学生から大学生まで「あなた」「あんた」「お前」を使うが、社会人になると「お前」がなくなり、「あなた」「あんた」で呼ぶようになる。一方、妹は兄に対しては主に「お前」という表現を使うが、姉に対しては小学生から大学生まで主に「あなた」「あんた」を使う。

このように、話し手は「目上の人（兄、姉）に対して、人称代名詞を使うことができない」という鈴木（1973）の説と異なり、目上の者、特に兄姉に対して人称代名詞を使うことに、抵抗を感じなくなっていることが明らかになった。

3.8 弟妹に対する呼称

表 11：弟に対する呼称

人称表現		レベル 項目	小		中		高		大		社	
固有名称	名前	名前	2	3	2	3	3	1	3	3	5	3
		あだ名	7	5	6	6	8	6	5	6	5	5
	あだ名	+ちゃん	2	3	2	3	1	1	—	2	1	2
		+くん	1	—	1	1	—	1	—	—	—	—
		その他	—	—	—	—	—	—	2	—	1	—
		(いません)	13	14	14	12	13	16	15	14	13	15
		合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

表 12：妹に対する呼称

人称表現		レベル 項目	小		中		高		大		社	
固有名称	名前	名前	3	3	3	2	4	3	3	7	5	2
		+ちゃん	—	1	1	—	—	6	—	2	2	5
	あだ名	あだ名	6	7	6	6	8	—	5	3	6	1
		+ちゃん	2	2	2	2	—	2	—	1	—	2
	その他	ねえ	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
		いません	14	12	13	15	13	14	16	12	12	15
		合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

弟妹に対する呼称に関するアンケート調査では、日本の少子化傾向の影響からか、「弟・妹がない」という回答が多い。表 11, 12 を見ると、弟妹を呼ぶ際には小学生から社会人まで、全ての男女共に、「名前」「あだ名」という固有名称で呼ぶことが一般的である。しかし、兄姉が弟に対して「名前、あだ名+くん/ちゃん」付け、妹に対して「名前・あだ名+ちゃん」付けの固有名称で呼ぶ例も見られた。目下であっても、呼び捨てを避けることで、弟妹を対等で配慮すべき相手とみなしている様子が窺える。

3.9 弟妹に対する会話の中での呼称

表 13：弟への会話の中での呼称

人称表現		レベル 項目	小		中		高		大		社	
固有名称	名前	名前	1	2	1	2	1	—	2	2	2	2
		あだ名	2	4	1	2	1	1	—	1	2	—
	あだ名	+くん	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—
		+ちゃん	1	2	1	2	—	—	—	—	—	1
人称代名詞	あんた	—	—	—	1	—	—	—	3	—	5	
	お前	7	3	6	5	9	8	8	5	8	2	
	おめえ	—	—	2	—	1	—	—	—	—	—	
		(いません)	13	14	14	12	13	16	15	14	13	15
		合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

表 14：妹に対する会話の中での呼称

人称表現		レベル 項目	小		中		高		大		社	
固有名称	名前	名前	2	2	2	1	2	1	2	2	4	2
		+ちゃん	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	あだ名	あだ名	4	2	2	1	—	—	—	1	4	2
		+ちゃん	1	1	—	1	—	—	—	—	—	—
人称代名詞	あなた	—	—	—	—	—	—	1	2	3	3	3
	あんた	2	7	4	7	6	7	5	7	2	3	
	お前	2	—	4	—	4	—	—	—	—	—	
	おめえ	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	
		(いません)	14	12	13	15	13	14	16	12	12	15
		合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

表 13, 14 に示したように、会話の中で兄姉が弟及び妹に対して用いる呼称について、小学生男女は共に「名前」や「あだ名」で呼ぶことも、人称代名詞で呼ぶこともよく見られる。

会話の中での兄姉からの弟への人称代名詞は、次のような特徴が見られる。兄は弟に対して、小学生から社会人まで「お前」を使うことが多い。それに対して、姉は弟に対して、「あんた」「お前」を使うが、年代が上がるにつれて「あんた」が増え、「お前」が減少する。

一方、兄姉が妹に対して用いる人称代名詞は、兄は「あなた」「あんた」「お前」で、世代が進むにつれて「お前」→「あんた」→「あなた」と変わっていく。姉は「あんた」「おまえ」で、やはり世代が進むにつれて「あんた」→「あなた」と変化する。

この結果は、鈴木（1973）の「目上の者は目下の者に対して名前、人称代名詞を使うことができる」という原則を裏付けるものである。

しかし、アンケートの意見欄で、小学校5年生の男子3名と女子1名と中学校2年生の男子1名と女子1名は弟、妹に対してときどき、「そっち」という指示詞を呼称表現として使う場合もあると回答した。これは、鈴木（1973）をはじめとした他の先行研究のなかでは見られなかった事象である。

今回は対称詞の調査であり、指示詞はほとんど出てこなかったが、同時に行った自称詞の調査では「こっち」「こちら」などの指示詞の使用が、小学生男子を中心に見られることが明らかになっている。呼称表現における指示詞の使用は今後注目すべき点のように思われる。

4. 日本語における親族呼称の特徴のまとめ

今回の調査結果は、概ね鈴木説を裏付ける結果を示したが、部分的には鈴木説に反する点や、指摘されていなかった新たな点も見られた。それらは以下の4点にまとめられる。

第一は、子の世代から父母・祖父母の世代に対する呼称である。鈴木説によると、子の世代は父母・祖父母の世代を親族呼称で呼ぶとされており、調査結果も同様の傾向を示している。しかし、その親族呼称のバリエーションが豊富であるという特徴が見られた。また、「名前+ちゃん/さん」「あだ名+ちゃん/さん」なども一部で使われていた。「さん」は父母で、「ちゃん」は祖父母でそれぞれ優勢である。

第二は、きょうだい間の呼称である。鈴木説によると、弟妹は兄姉に対して呼びかけの際、親族呼称を専ら使うとされているが、実際には名前やあだ名など非親族呼称で呼ぶことも多く、会話の中では、「あなた」「あんた」「お前」などの人称代名詞を使うこともある。

第三は、性差である。親族間の呼称は、呼ぶ側と呼ばれる側、双方の性差という要因が働いている。成人した女性は父親を「おやじ」と呼んでも、母親を「おふくろ」とは呼ばないように、こうした要因を考慮に入れないと説明できない例も少なくない。

第四は、年代である。話し手の年代によって呼び方が変わり、成長とともに呼称の社会化が進む様子が観察された。また、性差の関連では、男子のほうが女子よりも早く幼児語的な呼称を退け、社会的な呼称を使用しようとする傾向の強いことがわかった。

今回の調査において得られた鈴木説と異なる調査結果の背景には、(1) 少子化による個人主義的傾向の進行、(2) 携帯電話やインターネットといったコミュニケーション手段の変化、(3) 都市化の進展や生活様式、価値観の多様化、(4) 核家族化の進行による三世同居世帯の減少などの変

化, の影響があると考えられる。これらの社会的な変化と呼称表現の変化の関わりについては, 今後の研究課題としたい。

参考文献

- 岡本真一郎(2000)『ことばの社会心理学』ナカニシヤ出版
- 荻野網男(1998)「大都市居住者の対人関係と敬語行動」『日本語学』17, pp.160-167 明治書院
- 尾崎喜光(2009)「「じいじ」「ばあば」—全国調査から使用状況を見ると…—」『国語研の窓』40号, pp.5-7, 独立行政法人国立国語研究所
- 尾崎喜光(2009)『加齢による社会活動の変化にともなう言語使用の変化に関する研究』平成18年度～20年度科学研究費補助金(萌芽研究)研究成果報告書, p.13
- 柴田武(1982)「現代語の語彙体系」佐藤善代治編『講座日本語の語彙7現代の語彙』pp.43-47, 明治書院
- 鈴木孝夫(1973)『ことばと文化』岩波新書
- 鈴木孝夫(1975)『ことばと社会』中公叢書
- 鈴木孝夫(1978)「自己と他者」『ことばの人間学』pp.28-66, 新潮社
- 鈴木孝夫(1979)「日本人の言語意識と行動様式—人間関係の把握の様式を中心として」『日本の言語学5意味・語彙』pp.428-445, 大修館書店
- 鈴木孝夫(1982)「日本語の自称詞と対称詞」『現代のエスプリ—日本人の間柄』pp.121-126, ぎょうせい
- 鈴木孝夫(1989)「自称詞と対称詞の比較」国廣哲彌編『日英語比較講座5文化と社会』pp.19-59, 大修館書店
- 鈴木孝夫(1998)「トルコ語の親族用語に関する2,3の覚え書き」『言語文化学ノート』pp.207-232, 大修館書店
- セペフリバディ・アザム(2011)「現代日本語における家族から呼ばれるときの呼称」『一橋大学国際教育センター紀要』2, pp.57-72, 一橋大学
- 田窪行則(1997)「日本語の人称表現」田窪行則編『視点と言語行動』pp.13-44, くろしお出版
- 原忠彦(1979)「親族名称」原忠彦・末成道男編『ふおるく叢書9仲間』pp.253-308, 弘文堂